

児の泣きに対する母親の感情・情動反応: 生後1ヶ月児をもつ初産婦と経産婦の比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34920

30. 児の泣きに対する母親の感情・情動反応

—生後1ヶ月児をもつ初産婦と経産婦の比較—

金沢大学医学部保健学科 ○田淵 紀子, 島田 啓子
坂井 明美, 亀田 幸枝

I はじめに

乳児は泣くことによって自分のニーズ（空腹、痛み、不快等）を母親に伝え、母親がこれを受け止め、対応していくことで、母子の相互作用が形成されていく。しかし、すべての母親が出生直後から児の泣きの意味するところを的確に把握し、対応できるわけではない。我々は、母親が児の泣きに適切に対応できるようサポートしていくことが、母親の育児不安や育児困難感の軽減につながる重要な役割の一つと考える。

乳児の泣きに関する研究には、泣き声の音声学的分析や医学的な問題のある児の泣き声の特徴などが提示されているが、児の泣き声を聞いたときの母親の感情や対処行動、児の泣きに対して母親がどのように適応していくのか、については十分に分析されていない。そこで、児の泣きに対する母親の感情や、母親がどのようにして児の泣きの意味をみきわめていくようになるのかを明らかにし、援助に役立てたいと考えた。これまでに児の泣きに対して母親がどのように受けとめているのかを質的に探り、児の泣きに対する母親の反応を報告してきた。

今回は児の泣きに対する母親の“感情・情動反応”について、初産婦・経産婦に違いがみられるかどうかを明らかにすることを目的とした。

II 方法

1. 調査期間： 1999年7月～8月

2. 調査対象：石川県内の病産院にて出産し、1か月健診に訪れた母親

3. 調査方法：自己記入式質問紙調査を承諾の得られた20出産施設において、調査回答が健診及び医療者の対応等に影響しない旨の説明をし、調

査の協力に同意の得られた母親に直接配付し、留置法による一括郵送で回収した。

4. 調査内容及び分析方法：

1) 児の泣き声をきいた時の母親の感情・情動反応
児の泣き声をきいた時、いとおしいと感じる時の情動（以後、受容的情動）10項目、負担に感じる時の情動（以後、非受容的情動）10項目（表1）について想起してもらい‘1.ほとんど思わない’‘2.どちらかといえば思わない’‘3.どちらかといえば思う’‘4.思う’までの4段階リッカート尺度を独自に作成し、各々最小10点～最大40点とした。非受容的情動項目の配点を逆転処理し、各々の合計得点が高いほど受容的情動、低いほど非受容的情動となるようにした。この尺度の内容妥当性は、母性・小児看護学における研究者と検討を行い、出産経験者10名によるプレテストにて質問項目の内容、表現を一部修正した。

2) 母親の感情・情動反応に関連する要因

母親の感情・情動反応に影響を及ぼすと考えられるサポートや母親の身体・精神状態、妊娠・出産の受けとめ方など13要因32項目の質問項目を母親の主観的評価によって表わされるよう4段階のリッカート尺度とし点数化した。その他、基本的属性として、母親の年齢、出産経験、児の性別、里帰りの有無、母親の職業、住宅環境を調査した。

3) 分析方法

統計解析はStatView Ver.4.02Jを用い、初産婦と経産婦の差は一元配置分散分析を行った。

III 結果

1. 対象の概要：

491名から回収し、有効回答は初産婦228名、

経産婦 254 名であった (有効率 98.2%)。平均年齢は初産婦 26.9 歳, 経産婦 30.1 歳であった。

2. 泣き声を聞いた時の感情・情動反応の実態

感情・情動尺度の Cronbach's α 係数は, 受容的情動尺度は 0.89, 非受容的情動尺度は 0.90 であった。感情・情動尺度による得点は, 表 2 に示すように, 初産婦, 経産婦ともに 30 点以上の高得点を示し, 受容的傾向が示された。非受容的情動得点は, 経産婦の方が初産婦より有意に得点が高く ($p < 0.001$), より受容的傾向が示された。

3. 母親の感情・情動反応と関連する要因

感情・情動得点に関連していた要因には, 泣きに対する一般的イメージ, 泣きの解釈, 泣きへの対応, 泣きへの対応に対する自信, 気持ちのゆとり, 出産・子育て経験, サポートへの満足度などがあげられた (偏相関係数 0.21~0.02, $p < 0.001$)。つまり, 子育て経験がある, 児の泣きに対応できる, 気持ちにゆとりがある, サポートに満足を感じている母親ほど, 感情・情動得点が高かった。

表 3 に初産婦と経産婦間において有意な差を認めた要因を示した。初産婦は経産婦より母乳不足の心配や子の健康状態に対する気がかりの得点が低く, より多くの心配や気がかりな状況を示していた。また, 泣きのイメージや泣きの解釈, 泣きの対応, 対応への自信感などの得点も低かった。また, 初産婦の方が泣き声を聞いた時の楽観度や泣き声のかん高さの得点が低く, 児の泣き声を負担ととらえる傾向や, 困難時の情報得点が低く, 泣きで困ったときに参考となる情報を経産婦より持ちえていないことが示された。

児の性別, 住宅環境, 職業の有無は初産婦・経産婦において差はなかった。

IV 考察

生後 1 月児の泣き声に対する母親の感情・情動反応は, “かわいい”, “うれしい” などの受容的情動傾向が初産婦・経産婦ともに認められた。一方, “辛くて泣きたくなる”, “不安 (心配) になる” などの非受容的情動は, 初産婦の方が経産婦より得点が低く, 非受容的な情動傾向を認めた。母親の感情・情動反応に関連していた要因と

初産婦, 経産婦間で有意な差があった要因から, 初産婦の方が経産婦より赤ちゃんは一般的にどのくらい泣くものかわからない, わが子の泣きの意味がわからない, 泣きへの対応ができない, さらにその対応つまり泣きやませることに自信がもてない状況にあることが明らかとなり, これらの状況が泣き声を聞いた時の初産婦の非受容的な感情・情動反応に大きく影響を及ぼすと考えられた。

V 結論

- 1) 生後 1 ヶ月児の泣き声に対する母親の感情・情動反応は, 経産婦の方が初産婦より有意に受容的情動傾向が認められた。
- 2) 初産婦は経産婦より, 母乳不足や子の健康状態に対する心配や気がかりが示された。また泣きのイメージや泣きの解釈, 泣きの対応, 対応への自信感が低かった。

表 1 泣き声を聞いたときの感情・情動

受容的情動	非受容的情動
1 かawaii	1 憎たらしい
2 うれしい	2 がっくりする
3 何かしてあげたい	3 あせって落ち着かない
4 離したくない, 抱きしめたい	4 辛くて泣きたくなる
5 幸せを感じる	5 どうしていいかわからなくなる
6 大きな喜びを感じる	6 うるさくてイライラする
7 心がはずむ	7 泣いてばかり, もう嫌
8 やっと泣いてくれた	8 不安 (心配) になる
9 楽しい	9 悲しい
10 いじらしい	10 わずらわしい

表 2 泣き声を聞いたときの感情・情動得点

	初産婦 (N=228)	経産婦 (N=254)
感情・情動得点	平均 (range10~40) $\pm$ SD	
受容的情動	30.5 $\pm$ 5.5	30.7 $\pm$ 5.4
非受容的情動	31.6 $\pm$ 5.7	33.5 $\pm$ 5.3

*** $p < 0.001$

表 3 母親の状況要因

	平均 (range1~4) $\pm$ SD	
	初産婦 (N=228)	経産婦 (N=254)
母乳不足の心配	1.97 $\pm$ 0.90	2.43 $\pm$ 0.89 ***
泣きに対する近所への気がかり	2.59 $\pm$ 0.95	2.90 $\pm$ 0.84 ***
子の健康状態の気がかり	2.30 $\pm$ 0.75	2.68 $\pm$ 0.82 ***
泣きに対する一般的イメージ	2.02 $\pm$ 0.58	2.53 $\pm$ 0.60 ***
泣き声を聞いたときの楽観度	2.62 $\pm$ 0.66	3.02 $\pm$ 0.59 ***
泣きの解釈	2.29 $\pm$ 0.66	2.79 $\pm$ 0.54 ***
泣きへの対応	2.89 $\pm$ 0.62	3.22 $\pm$ 0.56 ***
泣きへの対応への自信	2.49 $\pm$ 0.70	2.95 $\pm$ 0.71 ***
サポート (困難時の情報)	2.86 $\pm$ 0.65	3.03 $\pm$ 0.64 **
泣き声のかん高さ	2.88 $\pm$ 1.06	3.14 $\pm$ 0.99 **

** $p < 0.01$ *** $p < 0.001$